

論文

## 奄美德之島方言における否定の意思を表す形式の消長

The Rise and Fall of the Form to Denote Negative Volition  
in the Dialects of Tokunoshima, Amami

福島 秩子\*

FUKUSHIMA Chitsuko

Recent interviews with informants led to the discovery of the form to denote negative volition in the dialects of Tokunoshima, Amami, which belong to Ryukyu dialects. The form consists of an adverbial form of a verb and a negative form of *aru* “exist”. Its usage is examined also using past research data. The new sociolinguistic research provides a glimpse of on-going change happening in the dialects of middle aged informants and the status quo of the form.

キーワード：琉球方言、アルの否定形、否定の意思

Key words: Ryukyu dialects, negative form of *aru*, negative volition

### 1 はじめに

筆者は2010年から国立国語研究所の共同研究プロジェクト「方言の形成過程解明のための全国方言調査 (FPJD)」に関わっており、新潟県及び奄美德之島の調査を行っている。新潟県では他の研究者の協力も得て21地点でFPJDの音韻・語彙・文法項目について調査を行った。琉球方言圏に属する奄美德之島においては、担当の1地点で同様の調査を行った他、それ以外の複数地点においてFPJDの文法項目を中心に調査を行った。その際、奄美德之島の調査では、文法項目の最初の3項目 (表1参照) において、新潟県で行った調査と異なる結果を得た。これが本研究の発端である。

---

\* 新潟県立大学国際地域学部 (chitsuko@unii.ac.jp)

表1 FPJDの文法項目G-001～003と質問文

G-001 起きない	「8時になってもまだ[起きない]」と言うときの「起きない」のところは、地方によってオキネー・オキン・オキランなど、いろいろの言い方をします。この土地ではどのように言いますか。
G-002 来ない	「10時になってもまだ[来ない(こない)]」と言うときの「来ない(こない)」はどうですか。
G-003 しない	「今日は仕事を[しない]」と言うときの「しない」はどうですか。

G001～G003は動詞の否定形を問う項目であり、新潟県の調査では、オキネー、コネー、シネーなど、期待される動詞の否定形がいずれの項目にも現れる。一方、奄美徳之島では、表2のように、G-001～002では動詞の否定形が現れるものの、G-003においては動詞の否定形ではない別の形式が現れる。これは一体どういうことなのだろうか。

表2 G-001～003 奄美徳之島での調査結果 (70-80歳代の男性話者)

地点 (話者年齢)	G-001	G-002	G-003
徳之島町井之川 (80歳)	'wI:raN	kuN	sji: 'araN
天城町浅間1 (76歳)	'wI:raN	kuN	sI 'anaN(da:)
天城町浅間2 (76歳)	'wI:raN	kuN	sI: naN
伊仙町崎原 (81歳)	'wI:raN	kuNdo:	sji: naraN / sji:cjakuneN

なお、本論文での徳之島方言の表記は、岡村隆博他編著『徳之島方言二千文辞典』で用いた表記である。キーボードで入力できる文字のみを使うこととし、撥音はN、中舌母音i・eはI・E、語頭に現れる声門閉鎖音は'、喉頭化子音は大文字を用いて表記する。アクセントは高く発音される部分を [ ] にくくって示す。

## 2 'anaN/'araNとは？

浅間1の話者は、自身が方言研究者でもある岡村隆博氏である。岡村氏のG-001～003の回答をここに示す(例文1～3)。

- 1 G-001 8時になってもまだ起きない  
 hacI:[zI] na:[tI]Nba [Na]Nba ['wI:raN]

2 G-002 10時になってもまだ来ない

zju:[zI] na:[tI]Nba [Na]Nba ku[N]

3 G-003 今日は仕事をしない

[kju:]ja sI[gju]:tu [sI] 'a[naN(da:)]

実はG-001と002は主語が三人称であり、G-003は一人称である。したがって、第三者について述べる場合は動詞の否定形が現れるが、自分の行動については別の語形が現れるのである。岡村氏は、G-003で（動詞の否定形である）sjaNは使わないという。sjaNを使うとすれば、例文4のように第三者について述べる場合だそうである。

4 あれは仕事をしないやつだ

'a[rI]:ja sI[gju]:tu [sjaN Cju: da:]

G-003における岡村氏の回答はsI 'anaN(da:)である。これは動詞の連用形に動詞アルの否定形がついた形である。徳之島方言では、動詞の連用形が終止形として用いられる。たとえば、「誰が歩くか」はta[ga] 'akki:gaとも、ta[ga] 'akkijuN[ga]とも言う。前者は、終止形として使われた連用形に疑問を表わす助詞gaがついた形である。後者は、juN形と呼ばれる終止形にgaがついた形である。したがって、sI 'anaNは動詞の連用形sIに'anaNがついた形と考えられる。一方、アルの否定形は、井之川では'araNであるが、浅間1では'anaN、浅間2ではnaNとなっている。語源を考えると、アルの活用形である'araNが古く、'araN→'anaN→naNという変化が起きているようだ。

岡村氏の内省では、動詞の否定形とこのsI 'anaNという形式とは、以下のようを使い分けられている。「誰が歩かないか」という表現についてみると、動詞の否定形を使ったta[ga] 'akkaN[ga]は、習慣で何かをしないという状況や、能力がないのでしないという状況で、「誰が歩かないか」というようなときに使われる。たとえば、赤ちゃんたちの中で「誰がまだ歩かないか」というようなときである。一方、{動詞の連用形+アルの否定形}を使ったta[ga] 'akki[:] 'anaN[ga]は、誰か車に乗れなくて歩かなくてはいけないという状況で、「誰が自分の意思として歩かないか」というときに使われる。

したがって、{動詞の連用形+アルの否定形}は、あることをしないという自分の意思を表す形式なのである。否定の意思を表すときはこの形式、習慣や能力がないことを表わすときは通常の動詞の否定形を使うという使い分けがある。岡村氏によれば、二人称・三人称では、このような意思を表す形は使いにくい。G-003でこの形式が現れたのは、「今日は仕事をしない」という一人称の文脈であり、否定の意思を表現するのにぴったりの形式だったた

めである。このように人称により異なる形式を使うという日本語の例として、一人称では -タイが使えるが、二人称・三人称では-タイを使いにくく、-タガルを使うということがある。

ちなみに、表2で、崎原の話者のG-003についての回答は、「することができない」 sji: naraN と「したくない」 sji:cjakuneNである。否定の意思をはっきり示す代わりに、文脈的に可能なこれらの表現が婉曲的に用いられたと考えられる。

### 3 『徳之島方言二千文辞典』に見る'anaN

筆者らは、岡村隆博氏が日本語二千文を徳之島浅間方言に翻訳して作成した徳之島方言二千文をもとにしたマルチメディア方言辞書を作成した（岡村ら2009）。付属のDVDには、徳之島方言二千文とその読み上げ音声データなどの他に、以下のような多様な分析データが入っている。

表3 『徳之島方言二千文辞典 改訂版』 付属DVD所収の分析データ

徳之島方言－標準語 文節対応 (html)	整列キー：徳之島方言 順引き 整列キー：徳之島方言 逆引き 整列キー：標準語読み 順引き 整列キー：標準語読み 逆引き
徳之島方言・標準語 対応一覧 (pdf)	徳之島方言・標準語対応一覧（徳之島方言引き） 標準語・徳之島方言対応一覧（標準語引き）
二千文KWIC索引	二千文KWIC（整列キー：徳之島方言 順引き） 二千文KWIC（整列キー：徳之島方言 逆引き） 二千文KWIC（整列キー：標準語読み 順引き） 二千文KWIC（整列キー：標準語読み 逆引き）
標準語文自立語による検索	

'anaNの用例を探して、表3でゴシックで示した徳之島方言－標準語文節対応 (html) と二千文KWIC索引の整列キー：徳之島方言逆引きで、'anaNを検索した。図1・図2にその結果を示す。

umaN	そこの	1472
zju.maN	10万	1870
kumaN	こっちの	1756
KurumaN	車の	299
'anaN	いいえ	1187
'anaN	いや	1512
'anaN	いや	1591.3
'anaN	いや	1864.2
'anaN	いや	751
'anaN	じゃない	1318
'anaN	ちがう	262
'anaN	ではない	1000
'anaN	ない	1591.3
'anaN	ない	1592
'anaN	ない	930
'anaN	ない	1048.2
'anaN	違う	500
tE.gENmu'anaN	大概のものではない	472
kutu'anaN	ことではない	889
da.na.N	どこに	1458
da.na.N	どこに	959.1
karadanaN	体に	89

図1 徳之島方言 - 標準語文節対応 (html) (整列キー: 徳之島方言 逆引き) に見る 'anaN

1187		'anaN	uri ja'anaN'anaN
1512		いいえ	これは餅牛です
1591.3		'anaN	nigirida
		いや	おだよ
1591.3		'anaN	'usulga'anaN
		いや	そうでもない
1864.2		'anaN	goro.kuef.pozzida
		いや	"300ページだよ"
751		'anaN	hahatte hida
		いや	長臂だよ
1318	wagahusa ja'anaN'ana.kusu.N'anaE	'anaN	
	私か奴のいのはこんな色合い	じゃない	
262		'anaN	hida
		ちがう	毛だ
1048.2	uri ja'anaN'anaN de 'anaN baku'anaN	'anaN	
	それは間違いださうなものではない	ではない	
1591.3		'anaN'anaN	'anaN
		いやそうでもない	
1923	ha'ha'ngwa'haru'ha'ha'ita'anaN	'anaN	
	もうらよつと古くて大したものではない	ない	
500	hu'no'ho'ana'piga'pazozikimN	'anaN	
	言いにし、のだから体当のころあの男は正着で	ない	
1048.2	wa'na'anaN	'anaN	
	おそれ	ない	
500		'anaN	ari ja'akuba'ana'anaN
		違う	あれは役場のサイレンだよ
472	ku'ha'gamin'anaN'anaN'anaN'anaN'anaN	tE.gENmu'anaN	
	この手紙に一つずつ返事書くのも	大概のものではない	
889	Kimijubutu'ana'anaN	kutu'anaN	
	間違っているかどうかを決めるのは私の	ことではない	

図2 二千文KWIC (整列キー: 徳之島方言 逆引き) に見る 'anaN

図1・図2で得た用例は、表4のように二つの用法に分けることができる。第一に、間投詞としての用法がある。「いいえ、いや、違う」という意味である。第二に、名詞を承けて否定する用法がある。名詞+'anaN、もしくは共通語の「は」にあたる助詞jaを挿入した名詞+ja'anaNという形式になる。否定の意思を表す、動詞の連用形を承けて否定する用法の例は見つからなかった。使える状況が限られているせいかもしれない。

表4 徳之島方言二千文辞典に見る'anaN

文番号	徳之島方言二千文 ローマ字表記	標準語訳
	間投詞としての用法	
263	'ana[N], [ki:]da:.	ちがう、毛だ。
500	'ana[N], [arI:]ja jakuba:[nu] [sjaI]reN[da:].	違う、あれは役場のサイレンだよ。
751	'ana[N], heita[i] [da:]ki[da:].	いや、兵隊だけよ。
1187	'ana[N], [kurI:]ja 'una[N] dareN.	いいえ、これは雌牛です。
1512	'ana[N], [nigi:]rI[da:].	いや、右だよ。
1591.3	'ana[N], 'ussjI[ga]: 'ana[N].	いや、そうでもない。
1864.2	'ana[N], [gorokuzIppE:]zI[da:].	いや、5,60ページだよ。
	名詞を承けて否定する用法	
472	[kuNtegaminaN] [TINzi:]cI [heNzIkakiN]ba tE:gEN[muN] 'ana[N].	この手紙に一つずつ返事書くのも大概のものではない。
869	Roman Alphabet mazIgo:[tuN]du 'issjI:[ga]cI [KimIjuN] [kutu:]ja, wa[ga] sjuNkutu: 'ana[N].	間違っているかどうかを決めるのは、私のすることではない。
930	['i:guro:]hasIga, huNto[N]do: ['aNjiNga:]ja sjo:zIki[muN] 'ana[N].	言いにくいのだが、本当のところあの男は正直者ではない。
1030	['urI:]ja mazIge:[da:]. 'ussjI[:] kakju[N]muN 'ana[N].	それは間違いだ。そう書くものではない。
1318	wa[ga] hu:[sjaN] [muN]ja kussjuN ['irujE:] 'ana[N].	私が欲しいのはこんな色合いじゃない。
1593	[Na:] [NaNgwa:] huru:[hai], [tai]sItamuN 'ana[N].	もうちょっと古くて、大したものではない。
1048.2	waN[ja] 'ana[N].	おれじゃない

#### 4 GAJの徳之島調査に見る'araN

筆者は30年前に『方言文法全国地図 (GAJ)』の調査を徳之島で行っている。当時の調査票を見ると、以下のような用例が見つかった(例文5~9)。地点は、徳之島町亀徳および伊仙町伊仙で、話者はいずれも老年の男性である。

「アル」の否定形にあたる形式について、用法によって区別して下線をひいた。~~~~ (波線) が間投詞の用法、..... (点線) が名詞を承けて否定する用法、そして、\_\_\_ (実線) が動詞の連用形を承けて否定する用法である。

5 GAJ 項目番号179 「(雨が降ったら) おれは行かない」

waja 'ikai (亀徳) waNja 'ikaN (伊仙)

6 GAJ 項目番号183 「(お前が行かないなら) おれも行かない」

wama 'iki 'arai. (亀徳) waNba 'ikaN (伊仙)

7 GAJ 項目番号205 「いや、有るよ」

'araN 'a:jo (亀徳) 'araN 'aNda: (伊仙)

8 GAJ 項目番号248 「いや、役場ではない」

'araN jakuba 'arai. (亀徳) 'araN jakuba 'araN. (伊仙)

9 GAJ 項目番号143 「(もしかしたらお前は東京に) 行くのではないか」

'iki 'araNsje (亀徳)

亀徳では、項目番号179・183にあるように、動詞の否定形が'ikaN・'araNでなく、'ikai・'araiのようにiで終わる形式になっている。しかし、項目番号205・248の間投詞の用法では'araNのままである。項目番号248の亀徳では、間投詞では'araNで、名詞を承けた用法では'araiである、という違いが一文中で見られ、興味深い。また、項目番号143の動詞連用形+'araNの形式は「行かないの」と尋ねる確認要求表現で、sjeが後接したため'araNとなっている。なお、iで終わる形式の成立については、後節で取り扱う。

## 5 徳之島 壮年層調査 2012・2013から

徳之島では方言が急速に失われている現状を踏まえ、伝統的方言の使用状況を確認するべく、2012年～2013年に壮年層を中心とした面接調査を行った<sup>1)</sup>。話者の総数は41名で、3名の70代の老年層のデータも合わせて示す。調査者は中島由美・沢木幹栄・筆者の3名である。調査項目は文法及び音韻・語彙で特徴的なものを中心に入れることとし、この否定の意思形に関係した項目も入れ、翻訳式で尋ねた。関係する項目は表5のとおりである。本論文の末尾に、言語地図とグロットグラムを示す(図Aから図C)。グロットグラムは、島の北部から左回りで島を一周するように横に地点を並べ、話者の年齢を縦軸にしたものである(図3の調査地点図参照)。言語地図とグロットグラムの双方を比較しながら解説する。

表5 徳之島 壮年層調査 2012・2013の関係項目と質問文

次のようなとき、方言を使うとどのように言うか教えてください。	
項目番号4	〔親しい友達と話すとき〕私は行かないよ (一人称)
項目番号8	〔目上の人に言うとき〕私は行きません (一人称)
項目番号12	〔親しい友達とのやりとり〕(浜下りの踊りに) 私は出ないよ (一人称)
項目番号15	〔親しい友達とのやりとり〕(浜下りの踊りに) 私の妻は出ないよ (三人称)



+アルの否定形} で答えたのが63%、動詞の否定形で答えたのが25%であった。後者は特に南の伊仙町に多い。GAJの伊仙調査で、否定の意思形が出なかったことと関係があるのだろうか。{動詞の連用形+アルの否定形} そのものはある程度使われているようだが、動詞の否定形と否定の意思形の使い分けはなくなってきているのかもしれない。

## 6 亀津・亀徳のアルの否定形について

『CD-ROM版 全国方言資料』の徳之島町亀津南区の方言資料で'araNを探してみると、以下の用例が見つかった(例文10-12)。以下の表記は原文のままとする。'が声門閉鎖音と喉頭化子音のどちらにも使われている。

10 p.141 聞き入れはしないので

kikija 'aramuN nat'i

11 pp.145-6 (ハブが) むこうからおどりかかってくることはないからね

mokokac'i 'uduti kiRja 'aramuNnat'ija

いずれも動詞の連用形+jaを承けて'araNmuN nat'i(ないのだから)が付いた形か。

12 pp.141-2 何も楽しみはありません

n'aR tanusimija 'arerai

丁寧体も'areraiとなっている。

徳之島町亀津や亀徳のアルの否定形は表6のように活用しているが、他の地点では'iki 'araN(あるいはその変種)、'iki 'are:raNである。否定形は本来'araNという形式のみであったと考えられるので、この'araiという形式は新しく、終止形の活用に現れる-juiのようにiで終わる形式への類推として生じたと考えられる。

表6 亀津・亀徳の否定形の形式について

	行かない	行きません	食べる
言い切り	'iki 'arai	iki 'are:rai	kamjui
否定	'iki 'araNda:	'iki 'are:raNda:	kamjuNda:
~のか	'iki 'ara:sjiga	'iki 'are:rasjiga	kamju:mI

## 7 まとめ

徳之島の伝統方言には、動詞連用形+'araN(もしくはその異形'anaN、

naN) という否定の意思を示す形式があり、特に主語が1人称であるときに使われるのに対し、三人称では使いにくいという使い分けがあった。壮年層においてはこのように明確な使い分けはなくなっているようだ。形式自体は使われているので、主語の人称に関わらず使うことのできる否定を表す形式となってきたのではないか。'araNは本来アルの一活用形であるが、'anaN、naNと変化するにつれ、助詞のように活用しない形式として便利に使われているようだ。これは一種の語彙化と考えられる。

## 謝 辞

2013年7月27日、国立国語研究所共同研究プロジェクト「方言の形成過程解明のための全国方言調査」共同研究発表会において、「奄美德之島における否定の意思を示す形式をめぐって」と題し、発表を行った。本論文は、この発表に基づき、加筆訂正を行ったものである。発表会においていただいたご意見、コメントに感謝申し上げます。本研究は、国立国語研究所の共同研究プロジェクト「方言の形成過程解明のための全国方言調査」による研究成果の一部であり、研究の遂行にあたっては科学研究費基盤研究(B)「奄美方言データベース作成のための研究」(課題番号23320095)及び基盤研究(C)「複数の言語地理学資料の比較・総合の推進に関わる研究」(課題番号25370487)による助成を受けた。

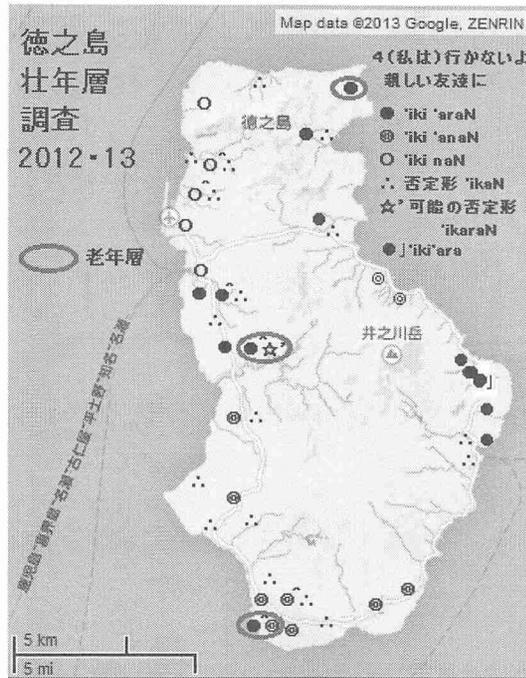
---

## 注

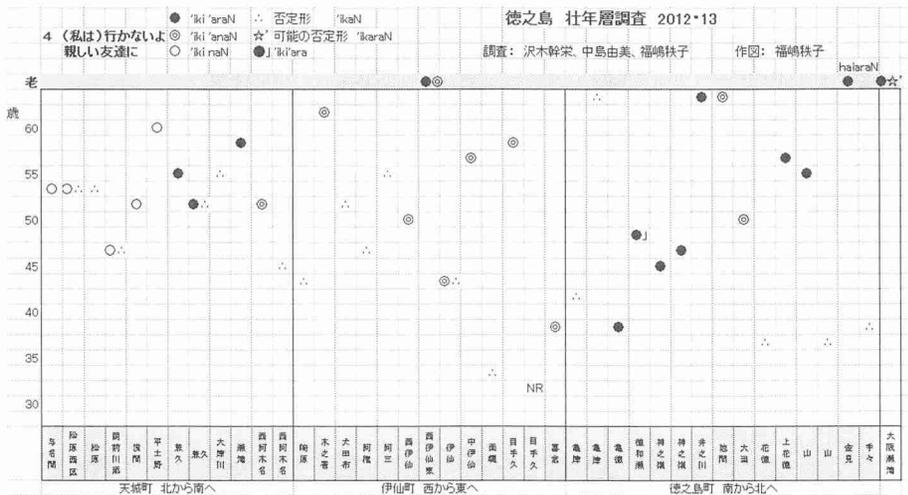
- 1 この調査の結果は2012年8月に国際会議NWAV-AP2において発表し、Sawaki et al. 2013としてまとめた。

## 参考文献

- 有元光彦1996.『琉球諸方言の動詞活用形の研究：データ編』科学研究費報告書。  
岡村隆博・沢木幹栄・中島由美・福嶋秩子・菊地聡 2009.『徳之島方言二千年辞典 改訂版』徳之島方言の会。  
SAWAKI, Motoei, NAKAJIMA, Yumi, and FUKUSHIMA, Chitsuko. (2013). "Standardization and Dialect Levelling in Tokunoshima." Working Papers from NWAV Asia-Pacific 2.  
日本放送協会編1999.『CD-ROM版 全国方言資料』NHK出版。  
法政大学沖縄文化研究所1979.「奄美德之島井之川」『琉球の方言』5.



図A-1 徳之島壮年層調査言語地図 (私は)行かない



図A-2 徳之島壮年層調査グロットグラム (私は)行かない



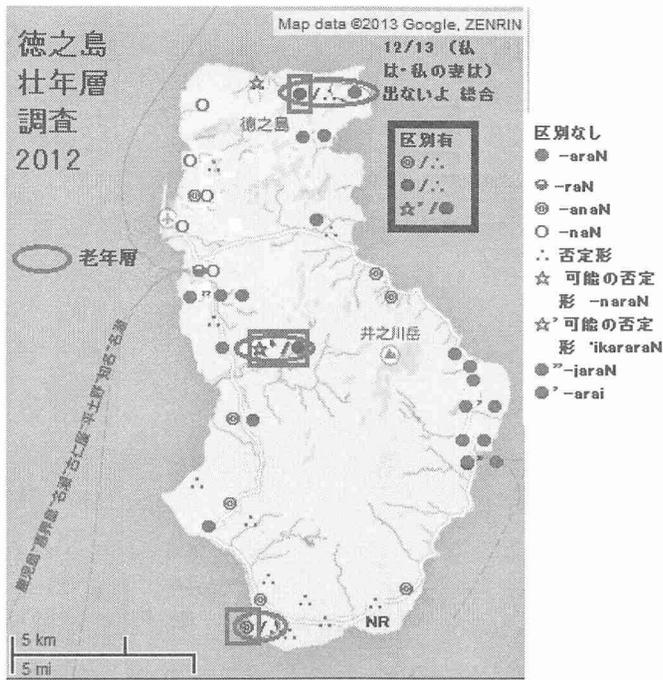


図 C-1 徳之島壮年層調査言語地図 (私は、私の妻は) 出ない [総合]

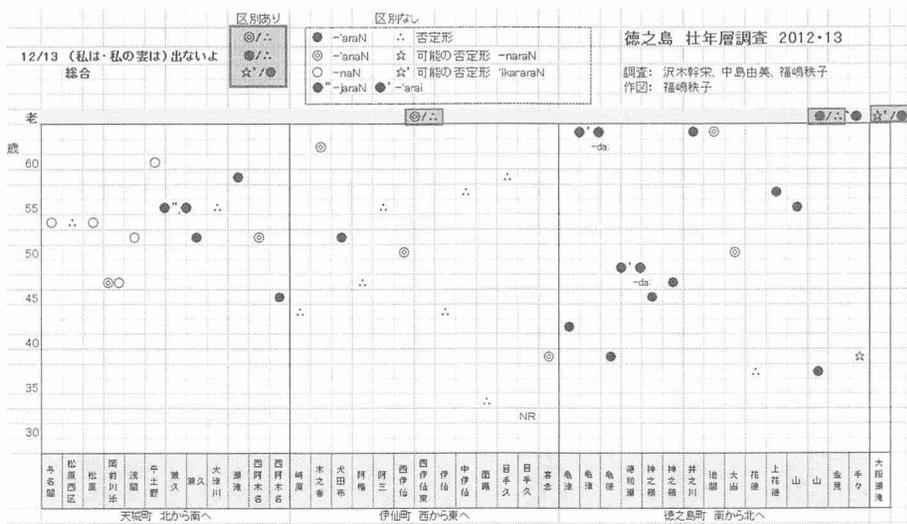


図 C-2 徳之島壮年層調査グロットグラム (私は、私の妻は) 出ない [総合]

